

令和2年産水稲の作付面積及び予想収穫量 (10月15日現在 岡山県)

【調査結果の概要】

1 作付面積

令和2年産水稲の作付面積（子実用）は2万9,800haで、前年産に比べ300ha（1%）減少しました。

また、水稲の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は2万8,900haで、前年産に比べ400ha（1%）減少しました。

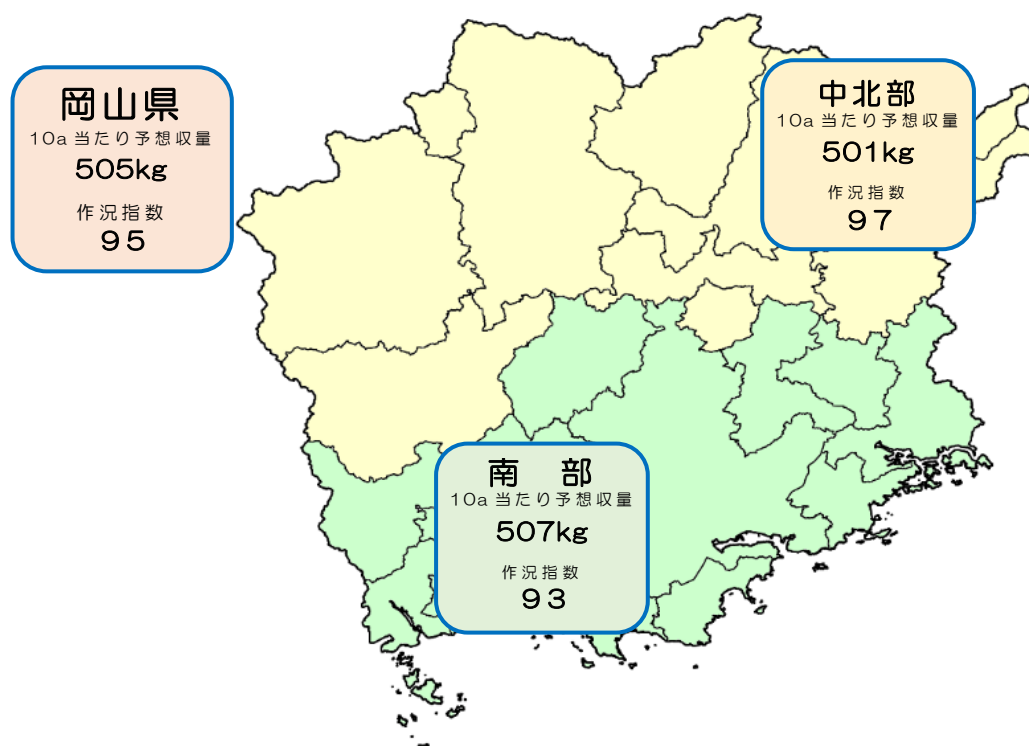
2 作柄概況

令和2年産水稲の岡山県の作柄はトビイロウンカによる被害発生に加え、夏場が高温気味に経過したことにより、登熟期間が短縮する方向に作用し粒肥大が抑制されたこと等により「やや不良（作況指数95）」で、10a当たり予想収穫量は505kg（前年産に比べ12kg減少）と見込まれます。

作柄表示地帯別では、南部が「不良（同93）」で同507kg（同18kg減少）中北部が「やや不良（同97）」で同501kg（同3kg減少）と見込まれます。

注：作況指数は、農家等が使用しているふるい目幅ベース（岡山県1.85mm）で算出

図 作柄表示地帯別10a当たり予想収穫量及び作況指数（10月15日現在）



穂数は、7月上・中旬が日照不足となった南部で「少ない」、田植期以降天候に恵まれた中北部で「やや多い」となり、県全体では「やや少ない」となりました。

1穂あたりもみ数は、7月下旬から8月中旬にかけて天候に恵まれたため南部、中北部ともに「やや多い」となり、県全体でも「やや多い」となりました。

この結果、全もみ数（穂数×1穂あたりもみ数）は、南部で「平年並み」中北部で「やや多い」となり、県全体では「平年並み」となりました。

登熟は、トビイロウンカによる被害発生や登熟期の高温により、南部で「やや不良」、中北部で「不良」と見込まれており、県全体では「やや不良」と見込まれます。

3 予想収穫量

以上の結果、予想収穫量（子実用）は15万500tとなり、前年産に比べ5,100t（3%）の減少と見込まれます。

また、主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた主食用の予想収穫量は14万5,900tとなり、前年産に比べ5,600t（4%）の減少と見込まれます。

表 令和2年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況（10月15日現在）

単位：%

県・作柄 表示地帯	区分	計	ふるい目幅別重量分布状況					
			1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
岡山	重量割合	…	…	…	…	…	…	…
	平均値	100.0	0.9	1.5	2.6	3.1	15.8	76.1
	対平均差(ポイント)	…	…	…	…	…	…	…
南部	重量割合	…	…	…	…	…	…	…
	平均値	100.0	1.1	1.7	3.1	3.8	18.5	71.8
	対平均差(ポイント)	…	…	…	…	…	…	…
中北部	重量割合	100.0	0.8	1.3	2.0	2.6	13.1	80.2
	平均値	100.0	0.7	1.1	1.6	2.0	11.2	83.4
	対平均差(ポイント)	0.0	0.1	0.2	0.4	0.6	1.9	△ 3.2

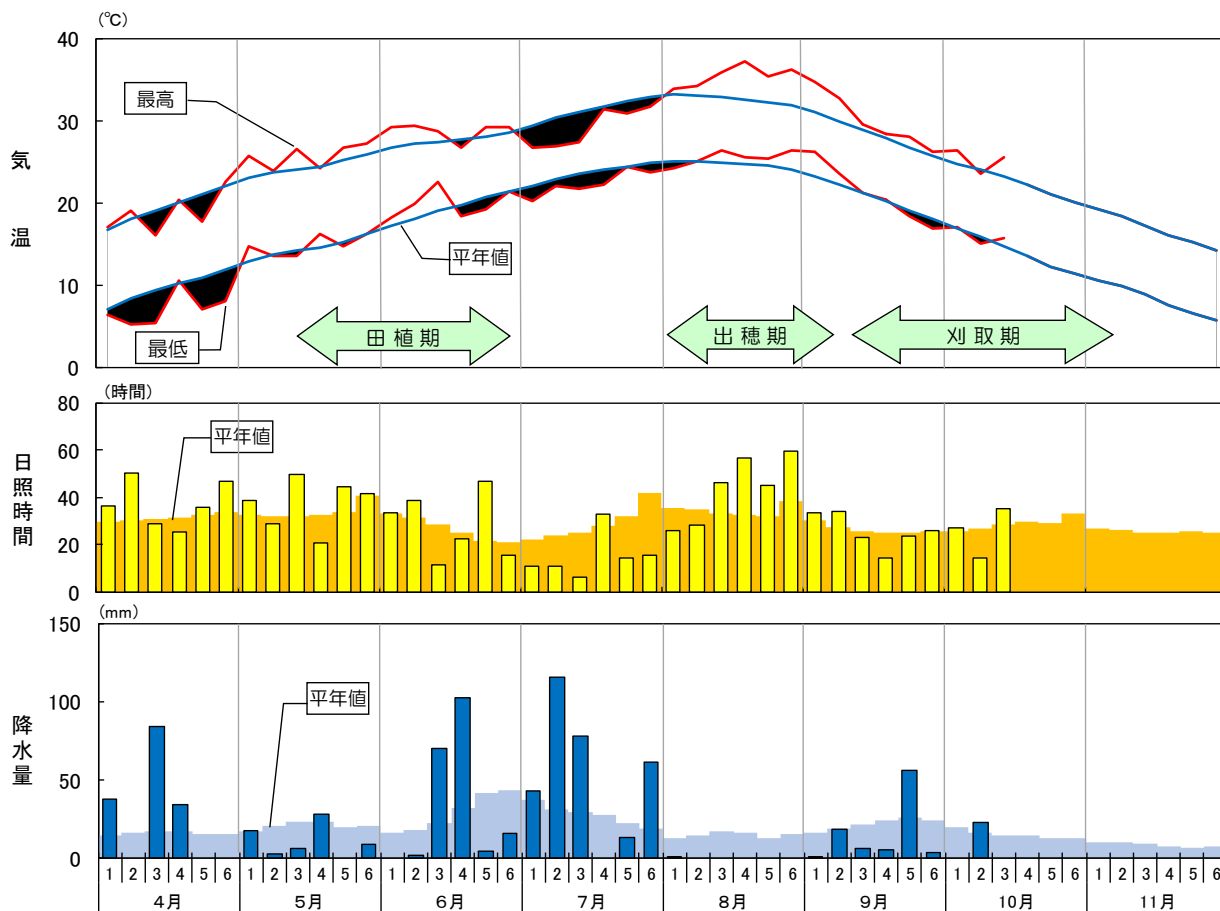
注：10月15日現在で、各県において設置された作況標本筆のおおむね80%以上でデータが得られた調査結果を表章しており、それに満たない岡山県の計及び南部は「…」で示しました。

◎累年統計表

区分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収穫量 (子実用)	作況指数	参考	
					主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)
	ha	kg	t		ha	t
岡山県 平成22年産	33,800	509	172,000	97	33,400	170,000
23	33,100	533	176,400	101	32,700	174,300
24	32,700	527	172,300	100	32,100	169,200
25	33,100	512	169,500	97	32,000	163,800
26	32,600	493	160,700	94	31,100	153,300
27	31,000	505	156,600	96	29,600	149,500
28	30,400	533	162,000	101	29,200	155,600
29	30,100	544	163,700	103	29,100	158,300
30	30,200	517	156,100	98	29,400	152,000
令和元年産	30,100	517	155,600	98	29,300	151,500
2(見込み)	29,800	505	150,500	95	28,900	145,900
南 部 平成22年産	20,900	503	105,100	94
23	20,500	540	110,700	101
24	20,200	539	108,900	101
25	20,300	513	104,100	96
26	20,000	508	101,600	95
27	19,100	512	97,800	96
28	18,900	542	102,400	101
29	18,700	552	103,200	103
30	18,900	523	98,800	98
令和元年産	19,000	525	99,800	98
2(見込み)	18,800	507	95,300	93
中北部 平成22年産	12,900	518	66,800	101
23	12,600	521	65,600	102
24	12,500	508	63,500	99
25	12,800	511	65,400	100
26	12,600	470	59,200	92
27	11,900	495	58,900	97
28	11,600	517	60,000	101
29	11,500	530	61,000	103
30	11,300	506	57,200	99
令和元年産	11,100	504	55,900	98
2(見込み)	11,000	501	55,100	97

◎半旬別気象図

岡山市の気象図



気象庁「アメダス」を基に作成

本資料は、「令和2年産水稲の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在 中国地域・四国地域）」の補足資料です。統計表や調査の概要等は、同資料をご覧ください。

お問合せ先

中国四国農政局 統計部 統計調査チーム 担当：浦野、豊嶋、権田

電話：086-899-8618 FAX：086-899-8619